

令和6年度 12月号



ふようだより

台東区立富士幼稚園
園長 足立 祐子
台東区浅草 4-48-18
電話 3874-2460
fuji-yo@city.taito.tokyo.jp



「就学前教育の充実」

園長 足立 祐子

いよいよ12月、今年最後の月になりました。年の瀬のあわただしい時期、忙しさについつい「早く早く、」と急ぎたててしまいがちなのですが、子供たちにとってはそんなことはどこ吹く風。舞い散る落ち葉に足を止め、「降れ降れ、もっと降れ！」と両手をあげて仰いだり、吐く息の白さに気が付き、いつまでも「ハーハー」と繰り返したりしています。自転車の子供椅子でスーッと通り過ぎているこの場所で、もしかしたらたくさんの発見と感動を見逃してしまっていないかと、年末年始は改めて見直してみたいと思います。お家の方も、子供たちの目線で何かを発見できると思います。

さて、現在「就学前教育の充実」が重視され、幼児期の教育の重要性が改めて見直されています。就学前教育とは、小学校で行う学習の先取りの教育ではありません。『幼児期の特性を踏まえ、体験することを重視した活動を意図的に整えた豊かな環境の中で行う』ということです。その中で、「主体的・対話的で深い学び」という言葉が使われており、小、中学校教育以降にもつながる大切なキーワードとなっています。この言葉について、幼稚園としての視点が、以下のように記されています。

○「主体的な学び」の視点

- ・周囲の環境に興味や関心をもって積極的に働き掛け、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの遊びを振り返って、期待をもちながら、次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

○「対話的な学び」の視点

- ・他者との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合ったり、考えを出し合ったり、協力して自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

○「深い学び」の視点

- ・直接的・具体的な体験の中で、「見方・考え方」を働かせて対象と関わって心を動かし、幼児なりのやり方やペースで試行錯誤を繰り返し、生活を意味あるものとして捉える「深い学び」が実現できているか。

難しそうに見える内容ですが、実は幼稚園生活の3年間で、子どもたちは「遊び」の中で様々な体験をしています。先生たちはただ遊ばせているのではなく、上記のような様々な「教育的視点」のもとに指導を行っているわけです。今後、良く耳にする言葉となるとと思いますが、生涯にわたる教育の根幹になる学びの定義となるでしょう。私たちもより一層研修を深め、新しい時代に向けて頑張っていきたいと思っています。

幼稚園では12月も様々な行事が計画されています。「こどもかい」では、各年齢に応じて、楽しんでいる日常生活の一端をご覧いただけるように準備を進めています。その中では、自分のお子さんの成長や頑張りを感じることが多くあるでしょう。しかし、半面、「あの子はこのように、どうしてうちの子は？」「これで大丈夫なのかしら？」と心配になることもあるでしょう。他の子供と比べて評価するのではなく、そのお子さんの過去から現在の成長に目を向けて下さい。しかし、「心配と感じる姿」もまた、目をそらさずに見ていただきたい姿です。「出来る、出来ない」ではなくて、一人一人の次の成長するべきステップは何なのかを、大人はしっかり把握しなくてはなりません。先生たちも、そこをしっかりと見つめていきます。保護者の皆様も、全体としてのまとまりや仕上がりだけでなく、そこに至る経緯や友達との関係、一人一人の努力したことにも目を向け、具体的に認めてあげていただきたいと思います。

